

競技・運営上の確認事項

- 1 競技は、2025年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則による。
リベロ・プレーヤーは試合ごとに2名まで登録することができる。
- 2 受付時刻は各チームの試合設定時刻の1時間前までとする。体育館の開場は8：30とする。
- 3 ベンチ及びフロアには有効に登録された監督、コーチ、マネージャー及び選手以外は入ることができない。
ただし、プロトコール前は、当該校（チーム）の中学生の入場も認める。
- 4 監督、コーチ、マネージャーマークは左胸部につけ、監督、コーチは統一された服装でベンチに入ること。
チームキャプテンは、胸の番号の下に規定のマークを付けること。また、身体へのマジック等での書き込みは禁止する。
- 5 設定時間より遅れた場合、前の試合が終了したら10分間の合同練習（パス程度）後、プロトコールを行う。同じフロアの試合が終了している場合は自由にコートやネットを使って練習できる。
なお、当該チームの試合が連続する場合は、最大15分間（フルセットの場合は最大20分間）あけてプロトコールを行う。
- 6 試合開始の予定時刻を定めているが、遅れることがあっても早く開始されることはない。プロトコールはプログラム記載時刻の11分前とする。
- 7 公式練習は6分間とする。合同で公式練習を実施しない場合は、各チーム3分間とする。
- 8 試合開始、終了時のあいさつの後、ネット越しに握手をする。
- 9 1日目の第1試合のコートアシスタント（スコアラー1名・アシスタントスコアラー1名・ラインジャッジ4名・点示係2名）は第3試合のチームから4名ずつ担当する。
第2試合以降は前の試合の敗者チームが担当する。
2日目の第1試合のコートアシスタントは第2試合のチームから4名ずつ担当する。
第2試合以降は前の試合の敗者チームが担当する。

審判上の確認事項

- 1 本大会は、2025年度（公財）日本バレーボール協会（以下 JVA）6人制競技規則による。
リベロ・プレーヤーは試合ごとに2名まで登録することができる。
- 2 リベロの不法な交代は、JVAの取り扱いに準じる。
（リベロの不法な交代が発覚した時点で、遅延制裁や反則の対象となる。）
なお、リベロとの交代はサイドライン上ですれ違うように行うこと。
- 3 各セットの開始時にコート内で円陣を組む場合、そのタイミングはスターティングラインアップの確認前後どちらでも構わない。
ただし、人数は最大でもスターティングリベロを加えた7人までで速やかに行い、スターティングラインアップの確認や試合開始の準備をすること。
- 4 ゲーム中のワイピングは、原則としてコート内の選手が行う。
コート内の選手で対処しきれない場合に備えて、クイックモッパー（2名以内）を待機させることができる。
クイックモッパーは、控え選手または選手以外の部員から選出する。
 - ① 控え選手の場合は、ベンチに待機して責務を果たす。
 - ② 選手以外の部員の場合は、1人は記録席脇、もう1人はベンチとウォームアップエリアの中間で待機して責務を果たす。また、服装は選手と区別し、ボール拾い等、チームのサポートは一切行うことはできない。
- 5 ゲームキャプテンは、審判に対し判定について質問する権利を有するが、抗議をすることはできない。また、他の競技参加者は質問する権利を有していない。
- 6 スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。
相手チームに向かってのガッツポーズやラインジャッジの判定に対する抗議等は「軽度の不法な行為」として扱い、制裁の対象となる。
「軽度の不法な行為」は、ステージ1（口頭警告）→ステージ2（イエローカードによる警告）のとおり、段階的に警告が与えられる。
- 7 選手交代（サブスティチューション）の時は、セカンドレフェリーやスコアラーが確認できるようにナンバーカードを高く掲げて要求すること。
- 8 いかなる場合でも、試合を遅らせることのないように注意する。
下記①～③の行為は、遅延制裁の対象となる。
 - ① 正規の試合中断（タイムアウト・選手交代）の要求後の取り消し
 - ② タイムアウト終了後、コートへの戻りが遅い等、試合再開を遅らせる行為
 - ③ ラリー終了後、サービス許可までの時間を超える長時間の靴紐の結び直し等、ラリー再開を遅らせる行為
- 9 各コートには、ウォームアップエリアを設ける。ただし、エリア内でのボールの使用は禁止する。
- 10 セット間は、試合中のチームのみフリーゾーンでのボール使用を認める。ただし、隣接コートの試合の妨げにならないように注意し、パス程度とする。
- 11 タイムアウトの要求は、オフィシャルハンドシグナルを明確に示すこと。
- 12 監督は、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。ただし、ラインジャッジの判定の妨げにならないように注意すること。